

平成24年度 第5回「学校自己評価」調査結果

平成25年3月26日

実施方法

実施日 平成25年2月22日（金）調査用紙配布
平成25年2月27日（水）調査用紙回収期限
調査対象 本校専任・嘱託教員全員 49名
評価方法 4段階で評価
A：よくあてはまる B：ややあてはまる
C：あまりあてはまらない D：まったくあてはまらない

今年度の重点テーマ

【学 校 運 営】 地域社会から信頼される学校運営
【教 育 内 容】 生徒実力の確実なレベルアップ
【生 徒 指 導 ・ 支 援】 懇切ていねいな指導
【教員研修 ・ 資質向上】 教職員の資質向上による教育の充実

分 析

A・Bを肯定的回答、C・Dを否定的回答とし割合を出し、本校の学校評価とします。アンケート結果を細かい数値ではなく、「校長による分析」という形で、下記のように公表します。この結果を設置者（理事長）に報告します。また、教職員全員で共有し今後の指導に生かし、よりよい学校作りに活かしていきます。

自己評価報告

■ 学校運営

私学の独自性

* 建学の精神（教育目標）について

〔設問〕建学の精神（教育目標）が教職員、生徒、保護者など、学校関係者によく浸透している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
47%	65%	66%	63%	72%

* 愛校心について

〔設問〕教職員、在校生、卒業生は学校に誇りを持っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
49%	66%	68%	63%	65%

【 評価と今後の目標 】

建学の精神（教育目標）を実際の学校教育にどのように反映させるかは大きな課題である。調査開始当初の40%台からすると、今年度の72%は大きな進歩といえるが、職員一人ひとりが、はっきりと教育目標に沿った学校教育を実施する必要がある。教育目標の「自立」は進路の決定に通じる道であり、「協調」は生徒指導に活かすべき指針であり、「創造」は生徒の人間形成に欠かすことの出来ない目標である。本校の職員も若手の教員が多くなってきた中での浸透率の上昇は喜ばしいことであるが、職員自身が本校の教育目標に沿った考えを共有し、実践していくことが大切である。また課題としては教育目標をどう具体化して学校教育を進めていくかを検討しなければならない。

「愛校心」については、調査開始以来の低い数字が懸念される。活発な学校行事やクラブ活動で成績を収めることが「愛校心」の向上につながると思われるが、今後の課題として、更にこれらの活動を充実させていく必要がある。24年度本校の演劇部の活躍によって、全国大会への出場が叶った。これに続く活躍を期待したい。

教育課程

* 学習指導要領の対応状況

〔設問〕教育課程は学習指導要領に沿っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
92%	88%	89%	96%	84%

〔設問〕年間を通じた教育計画を各教科別に立てている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
98%	92%	92%	96%	93%

【 評価と今後の目標 】

教育課程・教育計画についての理解は、学校の根幹であるといえる。高い数字が示すとおり、本校では学習指導要領に沿った授業が展開されている。更に年度当初に配布している「シラバス」によって、生徒・保護者にも理解を求めている。今後はカリキュラムの変更にも確実に対応し、きめ細かい指導計画を実施していけるように、また大学進学にも効果的な授業が展開できるよう努力を怠らないようにしたい。

教職員連携

* 教員・教科間連携状況

〔設問〕教員間・教科間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
71%	71%	72%	65%	77%

* 教員と事務職員の連携状況

〔設問〕教員と事務職員の情報交換の機会があり、相互理解、連携はとれている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
59%	63%	49%	70%	58%

* 会議の有効性

〔設問〕教職員会議をはじめ各種会議が、有効かつ効率的に機能している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
63%	71%	70%	55%	58%

【 評価と今後の目標 】

本年度大きく取り上げられた「いじめ」の問題にしても、一因に職員間の連携不足が考えられる。本校の場合、クラス担任は単独であり、授業も原則、一人で実施される。しかし、一人の教員では解決できない問題も多々発生し、そのために必要となってくるのが、教員間の相互理解と連携協力である。数字の面では過去最高の値となったが、問題を発生させない体制づくりこそが大切である。また仮に問題が発生しても、素早く対処できるように職員間の相互理解と協力、連携できるより良い人間関係を構築したい。教育の基本は、「人と人とのふれ合い」である。一方、教員と事務職員の連携は悪い結果となった。23年度、上昇した数字がもとの悪い状態に戻っている。日々、時間のない中であるが、連携の機会を設けるなど、具体的対策を示して、改善したい。

有効的な会議を運営するためには、まだまだ工夫が必要である。原則放課後開催となるが、時間的にも、クラブ指導があったり、進学講座が開講されていたりするため、どうしても準備不足となり、有効で発展的な内容が検討されるどころまで出来ていない。運営委員会ははじめ重要な会議では、的確な議論が絶対に必要である。学校の職員会議としての従来の形にとらわれずに、民間企業などの会議の手法を取り入れるなどして、今後工夫していきたい。

財務関係

* 財務に関する意識

〔設問〕学校の経営指標と財務状況について理解している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
41%	46%	36%	30%	49%

* 評議員・理事会機能について

〔設問〕評議員会、理事会の役割や機能について理解している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
30%	31%	23%	18%	14%

【 評価と今後の目標 】

本校では、財務状況を学校ホームページに公開している。肯定的見解は好転しているが依然として5割にも満たない。今後、値が改善されない場合は、状況報告会等の開催を考えなければならない。また逆に、教職員が関心を持ち、私学教員として運営に参加する気概が必要にもなってきている。

一方、評議員会・理事会の役割、機能については、状況が悪化している。教職員にとって、役割・機能を理解する機会がなく、このような結果になっている。

情報公開

* ホームページの活用状況

〔設問〕学校ホームページで可能な範囲の情報公開をしている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
65%	56%	51%	69%	88%

* 授業公開状況

〔設問〕保護者などへ授業を公開している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
84%	73%	74%	80%	84%

【 評価と今後の目標 】

ホームページの活用は、肯定的見解が大きく伸張した。2年前のリニューアルからかなり有効利用できるようになった。それでも更に更新状況を増やす必要があり、情報発信媒体として大いに活用したい。24年度に始まったなぎなた部・女子バレーボール部・吹奏楽部・演劇部・事務室によるブログ形式の発信も好評を得ている。今後は、保護者向けの連絡や行事予定、または緊急時にも利用できるように準備を進めたい。

授業の公開については、本校の場合、行事予定に組み込んで保護者総会時などに実施している。また中学校向けにも見学懇談会を行っている。例年と同じく高い数字結果となったが、今後も継続し、いろいろな方面から考察して「わかりやすい授業」の実践に活かしたい。

危機管理

* 役割分担について

〔設問〕事故、事件、災害時に対処する役割分担が明確にされている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
86%	77%	70%	73%	84%

* 危機管理対応状況

〔設問〕危機管理マニュアル、警察、消防との連携、訓練など学校の安全対策は十分とされている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
84%	83%	79%	60%	84%

【 評価と今後の目標 】

教職員一人ひとりの防災意識が高まっている。訓練においても、敏速な行動が出来ているが、実際に災害が発生して、避難が出来ても、その後の対策や各家庭への連絡、備蓄品などに不安を残している。仮に、学校が避難場所になった際の対応やシミュレーション、地域への開放など今後の課題は大きい。教職員は、生徒の安全と生命を守る役割があることをしっかりと認識しておきたい。また本校校舎も防災対策を考えなければならない。現在、耐震化の調査を開始しているが、早急に推進し、絶対の安全を確立したい。

開かれた学校づくり

* 地域交流について

〔設問〕地域や地域住民との交流ができています。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
67%	73%	77%	79%	56%

【 評価と今後の目標 】

70%台の数字が続いていたが、本年度急落した。管理職・生徒指導部長を中心に、五校連絡会や泉ヶ丘東中学校区青少年健全育成協議会等への参加を積極的に行っているが、教職員の理解が得られていないと考えられ、次年度は、初任者研修の一環として、地域で開催される教育講演会などへの参加を考えたい。地域から本校へは、吹奏楽部の演奏依頼や演劇部の公演依頼なども寄せられており、本年度の卒業式にもたくさんの来賓を招くことが出来ている。地域の期待に答えられる学校に成長させていきたい。

■ 教育内容

情報教育

* 情報能力育成

〔設問〕生徒の情報活用能力の育成を図っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
67%	65%	68%	72%	72%

* 情報モラル指導

〔設問〕情報の発信に伴う責任など情報のモラル面の教育に十分取り組んでいる。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
59%	67%	60%	58%	67%

【 評価と今後の目標 】

平成25年度入学生より、現情報国際コースからIT総合コースへと名称変更を行う。本校の課題の一つとして、このコースを中心とした情報教育の充実があげられる。設備の整ったコンピューター教室を更に活用して、情報教育の活性化を目指したい。また情報処理検定などの試験についても成果が上がってきており、生徒が積極的にチャレンジできる環境整備を急ぎたい。

情報モラルについては、否定的見解が多いとおり、不安材料が多い。本校では、携帯電話の学内持ち込みを禁止しており、本年度、大きなトラブルには至らなかったが、目の届かないところで問題を有している可能性は高いと考えられる。外部講演会なども企画して、情報科・生徒指導部を中心にマナー教育に取り組みたい。

人権教育

* 研究体制

〔設問〕人権尊重に関するさまざまな課題や指導方法を、教員が研究する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
41%	50%	40%	49%	54%

* 教育体制

〔設問〕人権尊重の教育において、さまざまな学習方法で、意識を高める教育を行っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
49%	54%	46%	43%	58%

【 評価と今後の目標 】

昨今の状況から、次年度は人権教育についてしっかり見直さなければならない一年になる。特に「命の大切さ」については、現在まで義務教育の範囲内である認識があったように思うが、高等学校でも引き続いて学習させる必要が生じている。大きな問題を発生させない組織作りが大切である。高等学校ではどうしても進学指導・教科研究が主になるが、配慮を要する生徒の多様化、目に見えない生徒の状況などに対応できる、教職員の知識が必要になっている。人権教育を形骸化しないように取り組みたい。

反面、人権教育を的確に実施するために必要な情報は足りていない。個人情報保護の観点から、新入生の入学時における情報は不足しがちで、教育現場としては、個々の指導が後手に回るケースが多い。私学の場合、近年入学する生徒への配慮は本当に多様化しており、その中で一人ひとりに対応していくことが求められているが、現状としては無理が生じている。本校の場合、組織的に教務部・学校適応委員会・スクールカウンセラー・保健室が連携をとって対処しているが、生徒個々の人権を尊重するためには、出身中学校・保護者とも協力して人権教育を推進していかなければならない。

環境教育

* 環境問題意識向上

〔設問〕 ゴミ、リサイクル、省エネなど身近な問題から環境への関心を高める教育をしている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
43%	52%	64%	47%	56%

* 実践的態度の育成

〔設問〕 生徒に清掃、校内美化に取り組ませている。また、施設・設備を大切にすることを育成している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
57%	58%	71%	57%	56%

【 評価と今後の目標 】

残念ながら、改善されていない。校内美化、節電への意識を育まなければ学校の評価は上昇しない。校舎の老朽化に伴い、この意識が薄れているようにさえ思える。愛校心にもつながる事項であるが、校内にゴミのポイ捨てや壁紙の破れなどが目立つようになっている。生徒の感覚が以前の時代とは違ってきているようにも思えるが、環境指導が必要である。また同時に、学校運営として、老朽化している施設・設備の改善に取り組まなければならない。これは保護者による学校評価にも多く要望が出されている項目であり、早急な対応が望まれる。

健康・食育

* 健康・食に関する指導について

〔設問〕健康教育、食育などにも配慮している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
39%	42%	34%	23%	33%

【 評価と今後の目標 】

本校にとって、もっとも弱い事項の一つに毎年あげられる。健康教育については、保健体育科・家庭科などの教科に委ねられており、教職員全体で取り組むという意識は薄い。また生徒・保護者の意見としては、食堂の充実が毎年欠かさず要望されており、改善しなければならぬ重要事項の一つである。現代は24時間いつでも弁当やパンが購入でき、便利になっている反面、生徒の体質や体力は低下し、病気や怪我に弱くなっている。保護者の皆様には、是非家庭弁当のご協力をお願いしたい。各家庭で諸事情はあると思うが、この項目の充実には、各家庭の協力が必要不可欠である。学校としては、教科・保健室を中心とした食育指導の充実、食堂との意見交換・連携を図る必要がある。

生徒会活動

* 生徒会活動支援状況

〔設問〕生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるように学校全体で支援している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
59%	60%	53%	60%	67%

【 評価と今後の目標 】

多くの私学に共通すると思えるが、生徒会活動に対する生徒の気運が高まらない。否定的結果が33%もある原因は、生徒の自主性が不足、一部の教員主導のもと生徒会運営が為されている点であろうと推測される。しかし、生徒自身は身近な出来ることから始めている。この点に関しては、評価されなければならない。例えば震災時には、いち早く生徒会が中心となり募金活動を実施し、驚く程の金額を寄付した。または早朝の挨拶運動や行事にも積極的な活動が出来ている。生徒会活動について学校は、サポートする側であるが、出来る限り、機会を与えたり、アドバイスをするなどして活性化するように指導していきたい。

その他

* 読書推進

〔設問〕図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
27%	31%	36%	49%	46%

* 部活動

〔設問〕部活動は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
83%	77%	87%	54%	61%

* ボランティア

〔設問〕ボランティア活動は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
45%	56%	45%	55%	49%

* 学校行事

〔設問〕体育祭、文化祭などの学校行事は活発である。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
80%	79%	72%	67%	74%

* スポーツ・芸術文化

〔設問〕スポーツ活動、芸術文化活動を計画的に教育活動に取り入れている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
84%	79%	75%	62%	72%

* 国際理解

〔設問〕他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
37%	40%	34%	11%	14%

【 評価と今後の目標 】

本校のアピールポイントとなる項目が列挙されているが、いずれも高い水準にあると言えない。前述もしたが、部活動における本年度の躍進は演劇部であった。地区大会から、府大会、そして近畿大会でいずれも高評価を得て、全国大会に進出した。吹奏楽部とともに、本校の文化活動を支える存在へと成長した。本校の部活動には、教員の献身的な取り組みがある。生徒も真摯に頑張る姿が見られる。課題は山積であるが、学校として今後成長させなければならない教育活動である。そのためには部活動に私学らしさを求めなければならない。

生徒が学校に楽しんで登校できているか。生徒が学校に何を求めているかをもっと把握する必要があるように思う。次年度はアンケートなどを実施したい。その上で計画的に方針を示し、教育活動を行う必要がある。特に国際理解については改善されないままであった。10%台の肯定的意見が指し示すように、生徒に与える国際教育機会は皆無であった。これも次年度、海外宿泊研修を企画運営することからスタートしたい。

その他、読書推進については、本校の図書室を利用する機会を多く設ける必要がある。本校の図書室は、他に比べても遜色なく、豊かな蔵書がある。教科と連携したり、ホームページにお勧め図書を紹介したり、新刊を登場させたりして、生徒の利用機会を増やす努力をしたい。

本校の主な生徒学校行事は精華学園祭（体育の部・文化の部）、文化鑑賞（堺市民会館）、校外研修・宿泊研修（コース別）、マラソン大会がある。また各コースでスポーツ大会や各種講習会を実施したりしている。マラソン大会が天候不順で中止となった他は、どれも一定の成果があったといえる。またボランティア活動については、環境福祉コースやインターアクト部が中心となって、地域の幼稚園・保育所、病院、公的機関などと連携して実施しているため、数字以上の活動は出来ている。ただ、学校全体としては、前述の生徒会による災害時の活動のように、具体的に動くことが大切である。

■ 生徒指導・支援

生徒指導

* 指導方針の一貫性

〔設問〕生徒指導は学校の方針に従っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
92%	96%	96%	90%	93%

* 生活指導について

〔設問〕生徒の生活指導に組織的に対応する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
90%	94%	90%	90%	88%

* 家庭との連携状況

〔設問〕生徒指導において、家庭との連携ができています。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
100%	90%	89%	94%	93%

【 評価と今後の目標 】

生徒指導に関しては例年評価が高い。しかし、次年度は人権教育の項目でも危惧した「命を大切に教育」を目標に生徒指導を実践していかなければならない。本年度の生徒指導のキーワードは明らかに「いじめ」「体罰」になっている。本校にとっては、この2つに間違いなく対応できる対策が必要である。教員が思う良い指導と生徒・保護者にとっての良い指導に、少しずつずれが生じてきている。大阪府の授業料無償化に伴い、入学生の多様化が感じられるようになった。従来とは違う意識の生徒も増えている。このような現状の中で、生徒が安心して学校生活を送るためには、問題の発生を防ぐ努力と問題が発生した際に敏速に職員が連携し、全体で対応することが望まれている。生徒指導は、全国的に難しい局面を迎えている。故に次年度は、生徒指導の在り方を見直す1年となる。

また家庭との連携に関しては概ね連絡体制が確立されてきている。保護者による学校評価でも比較的よい結果をいただいている。今後は、連絡だけでなく、学校の方針を確実に保護者に伝え、かつ保護者の意向を聞き、指導に反映させていくように努力していきたい。

生徒支援

* 学習指導について

〔設問〕学習指導において、生徒の実態に合わせた指導方法の工夫・改善を行っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
77%	83%	79%	73%	79%

* カウンセリング体制

〔設問〕 カウンセリングマインドを取り入れた支援体制がある。カウンセラーの活用が
できている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
69%	75%	68%	65%	86%

* 進路指導について

〔設問〕 生徒一人ひとりの興味・関心・適性に応じた進路選択ができるような支援体制
がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
77%	81%	77%	83%	72%

【 評価と今後の目標 】

進路指導について、数字の下降が危惧される。昨年度から10ポイント強の後退は、原因を解明し、早急に対策を考える必要がある。学校方針として進学に力を入れるというヴィジョンが出ている限り、進路指導がその中心になることは当然のことである。進路の情報をどのように生徒や保護者に伝えるか、将来に興味を持たせるかを工夫していかなければならない。特に進学情報の不足については、保護者の学校評価にも多く意見が出されている。本校の指定校・就職先の一覧などを配布したり、学校ホームページに公開したりする必要がある。本校はコース制のため、進路希望は多岐にわたる。進路目標に沿ったキャリア教育の導入や勉学・就職を両立させる【dual system】の確立など課題は多い。そのような中でも、特進選抜コースをはじめ大学進学に多くの合格者を出せたこと、また今年度、環境福祉コースを中心に「ホームヘルパー2級」講座が始まり、数多くの受講者が免許取得に向けて頑張っていることは良い成果や取り組みとしてここに紹介しておきたい。

カウンセリング体制については、今年度もっとも評価が上昇した項目である。多様化する入学生に対応すべく、担任を中心として指導を行っているが、個々の対応にはとまどいと不安があり、カウンセラーの存在は学校にとって不可欠な存在といえる。現在は時間的な制限のある中で機能しているが、今後は更に体制の充実が求められる。また教員についても毎日多忙で、業務が多く、体調面の不安も見られる。こちらにも対応できる体制が今後必要となる。

■ 教員研修・資質向上

教員研修

* 教員の資質向上について

〔設問〕 教員間で授業内容を評価、意見交換などを行う機会がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
20%	23%	28%	47%	58%

* 校内研修

〔設問〕効果的な校内研修計画を立案し、教職員に実施している。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
25%	48%	41%	54%	75%

* 初任者のサポート状況

〔設問〕初任者等、経験の少ない教員を学校全体でサポートする体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
22%	33%	29%	49%	58%

* 校外研修

〔設問〕教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
43%	43%	39%	44%	51%

* 研修成果の共有状況

〔設問〕研修、研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある。

◎ 肯定的見解の割合

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
16%	19%	25%	23%	30%

【 評価と今後の目標 】

研修成果の共有状況以外、ようやく5割の肯定的見解となった。明らかに本校の弱点であって、ここ数年早急に対策を進めてきた項目であるが、まだまだ十分とは言えない。校内研修については調査開始時の3倍の数字に成長したが、初任者のサポート・校外研修については、更に改善していく必要がある。特に研修成果の共有状況については全然数字が伸びておらず、25年度の大きな目標としたい。現状は、生徒指導や雑務に忙殺され、研修を実施する時間さえない毎日であるが、それでも自己研鑽・自己啓発は今の時代、絶対必要である。また全体で経験の少ない教員を支え、成長させていく雰囲気も大切である。個々一人ひとりの成長が学校を支え、生徒に還元できることを意識したい。

総合評価

今年度の調査では、全39項目中、11項目で評価を前年度から下げる結果となった。特に、10ポイント以上のマイナス評価となった項目は、教育課程（学習指導要領の対応状況）、教職員連携（教員と事務職員の連携状況）、開かれた学校づくり（地域交流について）、生徒支援（進路指導について）の4項目となっている。また依然として評価が低い項目としては、財務関係（財務に関する知識）（評議会・理事会機能について）、健康・食育（健康・食に関する指導について）、教育内容その他（読書推進）（ボランティア）（国際理解）、教員研修（研修成果の共有状況）の7項目が50%以上の否定率となっている。逆に、10ポイント以上の成長を見せた項目としては、教職員連携（教員・教科間連携状況）、財務関係（財務に関する知識）、情報公開（ホームページの活用状況）、危機管理（役割分担について）（危機管理対応状況）、人権教育（教育体制）、健康・食育（健康・食に関する指導について）、生徒支援（カウンセリング体制）、教員研修（教員の資質向上について）（校内研修）の9項目となっている。

このアンケート調査により、平成25年度に必要な改善点・留意点が明確になったと思われるが、いずれも単年計画ではなく、中期・長期的な構想を持って検討、実施していかなければならない。また、今年度は社会全体の「学校評価」が非常に厳しくなった1年であった。学校全体として、「いじめ」を許さない日常生活、「体罰」のない指導を徹底していかなければならない。生徒に命の大切さを教え、育む教育を推進する。

また「良い指導」について、教員の考える指導と保護者の望む指導にかなり差が生じてきている。教員が正しいと感じて行う指導が、生徒・保護者には理解されなかったり、迷惑されることがある。生徒一人ひとりを成長させる目的は同じであるだけに、きめ細かい連携が必要である。保護者懇談会・家庭連絡などを通じて連携を深め、目的のために努力したい。

保護者対象学校評価アンケートの項目「生徒は精華高等学校での高校生活に満足している」の質問に対して、評価A 32% 評価B 49% 評価C 16% 評価D 2%の結果をいただいている。悪い数字ではないが、今ある信頼を失墜させないように学校教育を推進したい。

※ 調査結果の%表示については、すべて小数点以下を四捨五入した数値である。

学校評価委員会構成

学校長 教頭 教務部長

生徒指導部長 進路指導部長 事務長

以上6名

平成24年度

学校自己評価報告書

学校法人精華学園 精華高等学校

学校評価委員会